

佐賀市教育委員会 様

学校名 佐賀市立諸富中学校

校長名 下川 登 志 雄

令和7年度教育課程について(届出)

このことについて、佐賀市立小・中学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおり届出します。

記

1. 学校の教育目標

■令和7年度 佐賀市立諸富中学校 学校経営グランドデザイン

校訓 「自主創造」

■学校教育目標 ■ 夢をもち たくましく 挑戦する 生徒の育成 創り,つなぐ～ 夢 絆 伝統

学校経営の方針

- (1) **コミュニティスクール**の取組を通して、保護者や地域の方々等との連携および相互理解と信頼による「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- (2) 生徒の**自主創造性**、**協働性**の確立を目指し、生きる力を育む教育を推進する。
- (3) 全職員が「**チーム諸富**」の一員として、積極的に学校運営に参画できる体制を確立する。

めざす子ども像

- (1) **夢(なりたい自分像)**をもてる子ども
- (2) 豊かで**たくましい心身**をもつ子ども
- (3) 何事にも積極的に**挑戦**する子ども
- (4) 助け合い、支え合いながら**絆をつなぐ**子ども
- (5) 郷土や母校の**伝統に自覚と誇り**をもてる子ども

めざす教師像

- (1) 子どもに寄り添い、**ともに**成長する教師
- (2) 地域を愛し、地域に学び、地域と**ともに**歩む教師
- (3) 目標をもち**情熱**にあふれ、**責任**を持って行動する教師
- (4) **チーム**の一員として行動し、**支え、研鑽し合う**教師

めざす学校像

- (1) **学校・家庭・地域が連携・協働**するコミュニティスクール
- (2) 児童生徒一人一人のニーズに対応し、**目標を確かに育む**学校
- (3) 学びを**人生や社会に生かす力をつける**学校

今年度の最重点目標

- (1) 地域とともにある学校づくり（コミュニティスクールによる学校・家庭・地域との連携・協働）
- (2) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現（確かな学力を身に付けさせるための授業改善）
- (3) 生徒指導、特別支援教育の充実（いじめや不登校の未然防止のための組織体制の整備）

学校教育目標実現のための方策

「夢」	「絆」	「伝統」
<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育を通じた将来の自分像及び目標の明確化 ○ 校内研究の充実による学力の向上 ○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 ○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育、教育相談の充実による「豊かな心」の育成 ○ 学校行事、生徒会活動、部活動の充実による「お互いに助け合い・支え合う心」の育成 ○ いじめや不登校の未然防止のための、生徒指導体制、教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域の伝統文化」や「市民性を育む取組」の継承と創造 ○ 家庭や地域との積極的な連携の強化 ○ 生徒指導体制の充実による落ち着いた校風の継承

2. 本校の教育の特色

1. 佐賀らしさを協働で創る生きる力に富む人づくり—諸富中学校校区コミュニティスクールとして、地域と共に学習活動の推進 (SDG s 1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、16、17)

(1) 令和6年度から9ケ年の学びを踏まえたコミュニティスクールとして、佐賀市初の取り組みを行っている。子どもを中心に据えた上で、学校が抱える困り感を地域と連携し、小中学校、地域の教育支援団体や各機関で組織している「学校運営協議会」の活動を通し、合議体として、積極的な情報交換を通しての教育活動に取り組む。その際、学校や子どもを取り巻く環境の変化について協議しながら共通理解を図る。

その際、PDCA サイクルを活かして、学校長のグランドデザイン、育てたい資質・能力を共有された「信頼される学校」を目指す。

(2) 学校の行事・地域行事に合わせて「学校運営協議会」が動くことで、ますます地域と学校の「共創」を目指す。例えば、地域指導者と連携して伝統芸能（「太田の浮立」「三重の獅子舞」）の継承に取り組む。

PTA 主催の講演会として、「夢づくり講演会」や防煙教育・性教育・食育・情報モラルの講座、読み語りなど、キャリア教育や命の教育、心の教育を、教育内容と活動に、人的・物的資源を活用し、効果的に組み合わせて実施する。

2. 生きる力に富む「市民性を育む教育」の推進 (SDG s 1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、16、17)

(1) 小・中・地域連携のボランティア活動を実施し、地域の一員である「こども市民」としての自覚を促す。町民体育大会や諸富町子どもフェスタなど、町や市主催の行事や活動に積極的に参加することで地域との絆を深め、協働してまちづくりを進める意欲に満ちた人づくりを行う。つまり、地域社会に主体的に関わり、佐賀らしさを協働で創る、生きる力に富む人材を育成する。

(2) 生徒会による校内外の J R C 活動の活性化を図り、SDG s を踏まえたボランティアの精神と公德心を養う。

3. 「学力向上」への取り組み (SDG s 3、4、5、10、11、12、17)

(1) 校内研究「主体的に学びに向かう授業づくり～協働的な学びを通して～」のテーマに沿って、年間を通して研修を行い、学力向上を推進する。

(2) 地域ボランティアの読み語りや教科横断的な資質能力を高める、スキルタイムを行う。

(3) 教科の課題の提出日を曜日ごとに決め、一人一台タブレットを活用して、家庭学習の充実を図る。

(4) 英語科・数学科の TT 授業または少人数授業を行い、一人一台タブレットを活用して、全教科で ICT 活用を推進する。

(5) 全国・県学習状況調査の活用を行う。

4. 豊かな心を育む「生き方」体験学習及びローテーション道徳・学年道徳

(1) 社会と共有する力を育む、学年ごとの「生き方」体験学習（総合的な学習や学校行事）：文化発表会を成果発表の場とする。

(2) 3年生：修学旅行での平和学習 (SDG s 16)

2年生：職場体験学習 (SDG s 8) 1年生：地域の伝統文化体験学習 (SDG s 11、17)

(3) 担任・副担任全員による道徳の授業を実施する。(ローテーション道徳・学年道徳)

(SDG s 4、5、7、8、12、17)

5. 成績二期制の利点を生かした取り組み

- (1) 「授業時数の確保」と「学びの継続性」－前期・後期の教育課程の編成で余裕を生み、「授業時数の確保」や「学びの継続性(長期休業で分断されない)」を保障し、授業の充実を図る。(SDGs 4, 5, 17)
- (2) 2年間を通じた進路指導－学習指導・生活指導また進路指導の充実のため、家庭と学校の連絡体制を密にし、教育相談(6月・11月)・通知表(10月)・三者面談(7月・11月)・通知表(3月)を配置し、年間を通じて継続的に家庭との連携を深める。(SDGs 4)
- (3) 生徒指導の充実－心と体を大切にする生徒、内面からの声に配慮できる生徒の育成を目指す生徒指導力の向上や生徒理解のための研修等により、教師が生徒の人権を尊重し、徹底して寄り添いながらの支援を目指す。また、すべての教育活動において、生徒の自己決定を促す、開発的生徒指導の充実を図る。(SDGs 4)

3. 教育計画

(1) 本年度の教育の重点

1. 「生きる力」を育むために、確かな学力を身につけさせる、主体的・対話的・深い学びを目指す、授業づくりを実践する。

- (1) 授業づくりの3ステップをどの授業でも統一して実施し、どの教師の授業においても生徒に授業の見通しや流れを明確化させる手立てをとる。また、各教科の特質に応じた学習課題の設定及び学習の進め方の工夫が、生徒が主体的・対話的で深い学びに向かうように授業力向上を図る。(SDGs 4)
- (2) 個に応じたきめ細かな指導や教科横断的な資質能力をつけさせるスキルタイム、生徒会主体の学習クラスマッチや家庭学習などを通して、基礎・基本の徹底を図る。(SDGs 4)
- (3) 全教科でeライブラリーアドバンスを家庭学習と連携させ、ICT活用を推進し、指導法の改善を図る。(SDGs 4)
- (4) 全教科で、県平均を上回ることを目標とする。

2. 機能する生徒指導体制の充実及び道德教育の充実を図る。

- (1) 組織で動く生徒指導体制の確立を目指し、全職員の共通理解のもと、機能する生徒指導体制の充実を図る。そして、生徒指導部を中心とした提案や連絡体制を確立する。(SDGs 4)
- (2) 教育活動全体を通じての取り組みと学年でのローテーションによる道德授業の計画的な実施や月1回の人権集会などを通して、人権や命の大切さを認識させる。

3. 特別支援教育や教育相談の充実を図る。

- (1) 通常学級に在籍している困り感を持つ生徒の把握と理解に努め、指導や支援の方法を共有化し、より効果的な支援を目指す。(SDGs 4)
- (2) 不登校及び不登校傾向生徒の支援体制(相談室やスクールカウンセリングの活用)を充実させ、関係機関との積極的な連携により、効果的な支援を目指す。(SDGs 3・4)
- (3) 不登校及び不登校傾向生徒の支援体制として、ICTサポートを行う。
- (4) 定期教育相談(6月・11月)を実施し、いじめの防止や生徒の悩み解消に努める。

4. 生徒会活動や部活動の充実を図る。

- (1) 市民性を育む取り組みやボランティア活動を通して、地域の一員である「こども市民」としての自覚を促す。町や市主催の行事や活動に自ら進んで積極的に参加する。(SDG s 11)
- (2) 生徒会の自主的な取り組みを通し、「いじめゼロ」の学校の実現を目指す。(SDG s 10)
- (3) 部活動を通して、心身ともに健全で、礼儀や思いやりの心を身につけた生徒の育成を目指す。(SDG s 3)

5. コミュニティスクールとして、育ちと学びの連続性を確保する。

SDGs(4, 5, 8, 10, 11)

- (1) 保護者との連絡・面談、各種便りやホームページ等での情報発信をきめ細やかに行い、保護者や地域に信頼される学校づくりをしていく。
- (2) 地域全体を学習の場とした「総合的な学習」や「特別活動」を展開し、ふるさとを意識した学習を行う。また、地域の伝統行事及び芸能文化を積極的に継承・推進する。
- (3) 諸富教育振興会を活用した小中連携、地域の人材活用や地域でのボランティア活動等を充実させる。
- (4) 地域全体で子どもを育む環境をつくるため「子どもへのまなざし運動」をPTA活動で実施する。

6. 成績二期制の利点を生かす。 SDGS(4, 5, 16, 17)

- (1) 長いスパンでの学習を定着させ、定期テストに取り組みさせる。
- (2) 家庭との連携を深めるために年2回の三者面談を実施する。
- (3) 夏休み・冬休み前に自己評価表を作成させ、学期中の取り組みを振り返らせるとともに、保護者への連絡カードを担当より配布し、連携を密にする。

7. 学校教育目標の周知及び具現化 SDGS(4, 5, 8, 10, 11, 17)

- (1) 集会等の活動の中で直接生徒に校長のビジョンの具現化を図り、学校だよりを通じて、保護者や地域の方々に伝え周知を図る。同時に、各学級で校長の考えや思いを担当が自らの言葉で伝えることにより、目標実現に向けての一体化を図る。
- (2) キャリア教育の一環としてPTA主催の「夢づくり講演会」を実施する。社会で活躍する本校の卒業生や夢をもって人生を切り拓いている社会人を呼び、講演会を行う。また、1年「職業人に学ぶ」や2年「先輩に学ぶ」でも、本校の卒業生や地域の人材を活用する。
- (3) 豊かな心の育成として、総合的な学習の時間、特別活動、「ひと・もの・こと」を生かした行事や単元を構想する。

(2) 佐賀市の特色ある取組について

① 幼保小中連携の取組 SDGS(1,3,4,5,8,11,12,17)

1. 校区内小学校（諸富北小・諸富南小）と連携し、基礎基本の定着と学力を高めるための授業等における実践的研究を行う。
2. 中学校と小学校での研修部の連携を深め、学力の向上を図る教育の研究を進める。
3. 共通の柱を立てて、それぞれの学校で授業研究を行い、お互いに参観することで工夫改善を行う。
4. 小・中連携の交流学习により安心感を持ち、意欲的に学ぶ子どもの育成を目指し、中1ギャップに対応する。
5. 「小中連携担当職員」を中心に、9年間を見通した切れ目のない校内支援体制を推進する。

- 小学生対象の中学校での授業体験や部活動見学を充実させる。保護者には、授業体験や部活動の様子を参観してもらい、中学校に対する理解を深めてもらう。また、新入生説明会での家庭教育講座を活用し、保護者の子育てに対する悩みなどにも対応する。
- 幼稚園・保育園での職場体験や、3年生の保育学習（家庭科）を推進し、充実を図る。

②「いじめ・いのちを考える日」の取組

- いじめ問題の重大性を教師自らが認識するとともに、いじめはいじめを受けた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることを生徒が理解できるように、担任・副担任が講話を行う。(SDGs16)
- いじめ防止法基本方針に基づき、定期的な生活アンケート等を実施し、実態把握に努め、早期発見・早期解決に取り組む体制をつくる。(SDGs16)
- 生徒会本部が中心となり、いじめや人権に関する取り組みを企画・運営し、生徒自らがいじめや人権について考える体制をつくる。(いじめ0宣言)(SDGs16)
- 人権・同和教育の一環として、定期的に集会を行い、全ての人々の人権に対する意識を高める。(SDG s 10)

③市民性を育む取組

- より良い学校教育活動である、生徒会活動を通して、生徒がよりよい社会をつくるという意識向上を図り、博愛の精神と公德心を養う。(SDG s 11)
- 地域の行事（桜健康ウォーキング、子どもフェスタ、町民体育大会、子ども寺子屋、社会福祉協議会餅つき）へボランティアとして参加する。
- 募金活動（赤い羽根募金）や社会貢献活動（清掃活動、文房具回収）【整美委員会】【学級委員会】などに取り組む。

(3) 指導の重点7項目

①「いのち」を守る教育の充実(安心・安全な学校づくり)

(SDG s 3, 5, 10, 14, 15, 16, 17)

- 道徳教育の全体計画を作成し、学校教育全般を通して行う道徳教育の充実を図る。
- 考え・議論する特別の教科道徳の授業実施のための教材開発、ローテーション道徳や学年道徳など指導の工夫を図る。
- 体験活動等を生かした取り組み、保護者や地域の方々をゲストティーチャーとして招いたり、保護者が授業に参加・参画したりするような外部人材を活用した取り組み等、多様な学習の場や方法を工夫し、地域とともに生徒の心を育む取り組みを行う。
- 地域や家庭と連携した道徳の授業を行う「ふれあい道徳」では、その趣旨に基づき、本校の実態に応じた実施を教育課程に位置付ける。
- 交通安全教育や、防災教育を充実させ、自らの命を守るため主体的に行動する態度を育成する。

②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(学力向上)

- 主体的な学びの視点
生徒に身に付けさせたい力を明確にし、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を

図る。

授業づくりの3ステップを活かし、全職員、教科横断的な資質能力を基盤とするために、「見通しをもつ」→「粘り強く取り組む」→「振り返る」→「次につなげる」学習の進め方を工夫し、「学習計画カード」や「振り返りシート」を活用するなど主体的に学習に取り組む態度を育成する。

個別最適な学びを推進するために、TT 授業における指導法の研究や改善に努め、生徒一人一人のニーズに対応した指導に努める。(SDGs10、16、17)

2. 対話的な学びの視点(SDGs 4)

学習過程の中で、自分の意見や考えを発表する機会を充実させる。

学習形態の工夫、教科等の特質に応じた言語活動、ICTの効果的な活用を推進する。

3. 深い学びの視点(SDGs 4)

教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて、より深い学びを探究するとともに、そこで身に付けた力を表現する場として、総合的な学習の時間や各行事と関連するよう、生徒主体の活動、学びの起こるように教育課程の工夫を図る。

③特別支援教育の充実

1. 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育の関係諸機関と連携し、校内研修会の実施と各研修会への積極的な参加を図る。(SDG s 3・4)
2. 保護者と連携し生徒理解を深め、指導に生かす。(SDG s 3・4)
3. 具体的な個別の支援計画、個別の指導計画等を立て、個に応じたきめ細かな支援を行う。(SDG s 4)

④生徒指導の充実

1. 教職員相互に連携し、学校全体が1つになって機能する生徒指導体制を確立する。(SDG s 4)
2. 生徒指導の各部会・生徒指導協議会の効果的な運用と充実を図る。(SDG s 4)
3. 危機管理の周知徹底と関係機関との連絡・連携強化を推進する。(SDG s 4)
4. 規範意識を高めるための指導の工夫を行う。(SDG s 4)
5. 生徒会活動の活性化を図り、自主的な取り組みを推進する。
6. 生活の決まりやマナー向上に対する掲示物や呼びかけ等の取り組みを推進する。
7. 様々な問題を抱えた生徒に対し、教育相談担当者を中心にスクールカウンセラーやサポート相談員、スクールソーシャルワーカー等との連携を図り、個別のサポート体制を確立する。(SDG s 4)
8. 毎月1日の「いじめ・いのちを考える日」に、アンケートや人権集会等により、いじめや問題行動の早期発見・早期解決に努める。教育相談(定期教育相談6月・11月)の充実を図る。(SDG s 4)
9. 生徒会と連携し、生徒自ら学校をよくしようと主体的に考え、行動できるような取り組みを行うことで自己指導能力の育成を図る。(SDG s 4)
10. 様々な学校行事や学級活動などにおいて、一人ひとりに出番や役割を与えるような取り組みを行い、その頑張りを承認することで自己肯定感を高める。(SDG s 4)

⑤人権・同和教育の充実 (SDGs10)

1. 教育活動の全領域において、基本的人権と自他の尊厳の精神を尊重する態度を養う。
2. 集会等を行い、一人ひとりを大切に、相手を思いやり・助け合い・励ましあうことができる生徒およ

び学級、学校づくりをめざす。

3. 社会科「江戸時代の身分制度」の授業に関しては、教科担任と学年担任との研修を深め歴史的知識と心情の両面から、差別を許さない強い意志を育てる。
4. 教師自らが研修に努め、研ぎ澄まされた人権感覚を培う。
5. 年間を通して定期的に行う人権集会で、教師が輪番制で講話を行い、人権の大切さを伝える。
6. LGBTQなどの多様な人権課題についても発達段階に応じた学習を重ね、人権意識を高めるとともに、差別を許さない態度と実践的な行動力を育成する。
7. 佐賀市人権総合学習において、様々な人権についての学習やコミュニケーション能力、基礎学力の育成の充実を図る。

⑥グローバル時代に対応する外国語教育の充実 (SDGs 4)

1. 積極的にコミュニケーションを図る態度を育成する。
2. 身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。
3. 互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実を図る。
4. 4技能5領域をバランスよく育成するため、ICT機器の利活用を図る。
5. 授業を実際のコミュニケーションの場面とする観点から、授業を英語で行うようにする。
6. 小中連携が図れるように、お互いの授業を参観するなど、9年間を見通した指導を行う。

⑦情報教育の充実 (SDGs 4)

1. 教科や総合的な学習の時間を中心に、情報手段を効果的に用いる判断力や心構えを育てる。
2. 情報を扱う上で、違法な行為やルールを十分理解させ、それらを守る態度を育てる。
3. 情報伝達の危険性やマナーを十分理解させ、適切に情報を扱う能力を育てる。
4. 情報セキュリティに関する知識を養い、情報社会に生きる力を育てる。
5. 1人1台端末を有効に活動できるような研修を行いながら、分かりやすい授業や思考力・表現力を育む、個別最適な学び、探究的な学習の授業作りに取り組む。
6. 1人1台端末を活用し長欠や別室登校している生徒への授業を配信し、どの生徒も平等に授業をうけることができるように協働的な学びの実現に取り組む。
7. 各教科の目標を達成するための手段として活用し、目的にならないようにする。

(4)各教科等

各	国語	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(SDGs 4) 1. 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 2. 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 3. 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
	社会	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な

<p>教 科</p>	<p>公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。(SDGs 4)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の国土と歴史, 現代の政治, 経済, 国際関係等に関して理解するとともに, 諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(SDGs 4・9) 社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり, 社会にある諸 2. 課題の解決に向けて選択・判断したりする力, 思考・判断したことを説明したり, それらを基に議論したりする力を養う。(SDG s 3・4) 3. 社会的事象について, 課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに, 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情, 国民主権を担う公民として, その平和と繁栄を図ることや, 他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。(SDG s 4・10・16)
<p>数学</p>	<p>数学的な見方・考え方を働かせ, 数学的活動を通して, 数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。(SDG s 4、8、9、11、12)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数量や図形などについての基礎的な概論や原理・法則などを理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に着けるようにする。 2. 数学を活用して事象を理論的に考察する力, 数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(SDGs 4) 3. 数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え, 数学を生活や学習に生かそうとする態度, 問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。
<p>理科</p>	<p>自然の事物・現象に関わり, 理科の見方・考え方を働かせ, 見通しをもって観察・実験を行うことを通して, 自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然の事物・現象についての理解を深め, 科学的に探求するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。 2. 観察・実験などを行い, 科学的に探求する力を養う。 3. 自然の事物・現象に進んで関わり, 科学的に探求しようとする態度を養う。(SDGS14、11、7、3)
<p>音楽</p>	<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して, 音楽的な見方・考え方を働かせ, 生活や社会の中の音や音楽, 音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(SDG s 3、4、12)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに, 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 2. 音楽表現を創意工夫することや, 音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 3. 音楽活動の楽しさを体験することを通して, 音楽を愛好する心情を育むとともに, 音楽に対する感性を豊かにし, 音楽に親しんでいく態度を養い, 豊かな情操を培う。

美術	<p>造形活動と鑑賞活動の学習で、意欲的に制作や鑑賞に取り組み、自分の個性を見つめ、成長させることで自己肯定感を育成することを目指す。(SDG s 4、7、9、11、16)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 美術における基礎・基本を着実に身につけさせ、自己肯定感を育み主体性を伸ばす。 2. 個々の発想を十分に生かしながら創造力を高め、グループ活動を取り入れたり、ワークシートを活用したりして創造活動を行わせることで、知識や技能の向上を図る。 3. 計画的に鑑賞授業を行い、技能面の習得に終わらず作家の心情を汲み取る活動とすることで、美術文化に関心を持ち、生涯にわたり美術に親しむ態度を養う。 4. 授業のいろいろな場面で、ICT 機器を活用することで、制作や鑑賞活動に生かし、技能の向上と自他を認める態度を培うとともに豊かな感性を育む。
保健 体育	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。SDG s (3、4、5、6、8、12、17)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 2. 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 3. 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
技術 家庭	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。SDG s (1、2、3、4、5、6、7、8、9、11、12、17)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の変化に対応しながら、より良い生活を工夫したり創造したりしようとする態度を身につけた生活者の育成を目指す。 2. 生活に必要な基礎的・基本的な知識とそれらに係る技術を身に着けている生徒の育成をめざす。 3. 3年間の学習に見通しを持ち、見方・考え方を働かせて、生活や社会の中から問題を見出し、解決する力を身に着けさせる学習活動を工夫する。 4. 思考力・判断力・表現力をはぐくむために、実践的・体験的な学習活動や言語活動を取り入れた学習活動を工夫していく。 5. 先人の知恵や技術に学び、知る喜びや完成の喜びを味わえる学習活動を工夫する。
外国語	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考え方などを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。(SDGS 2、4、5、8、12、16)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. TTによる授業を行い、個に応じたきめ細かな指導と評価の充実に努める。 2. 語彙・基本文の学習や家庭学習を通して、基礎・基本の徹底を図る。 3. ICT機器利用や言語活動を工夫し、英語で表現したり、伝え合ったりする力を育む。 4. 英検などの外部検定を奨励し、英語学習への意欲を喚起する。

	特別の教科道徳	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の実態をもとに年間指導計画を立て、内容項目ごとに指導案をまとめたり資料を活用したりするなど、指導内容や方法を工夫していく。自分の考えを表現し、意見交流や討論を行い、言語活動の充実化を図る。 2. ローテーション道徳や学年道徳など形態の工夫を通して、学年の職員で連携して指導に取り組む。 3. 各教科と連動した道徳教育の実施を図り、様々な場面で道徳的实践力を育てる。 4. 地域教材の開発や情報収集に努め、ICT機器の活用や講師招聘などを有効活用して、効果的な道徳の授業を行う。 5. 体験活動の中で社会性を身に付けさせ、人とのふれあいの中で相手を思いやる心を育てる。 (SDGS 3、4、5、6、7、8、10、11、12、13、14、15、16、17)
総合的な学習の時間		<p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 <p>【1年】 テーマ 郷土を知る (SDGs 3、4、8、9、10、11、12)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の人材を積極的に活用して、地域・郷土への関心・理解を深める。 2. 地域の調べ学習を通して、諸富町の産業や伝統にふれ、市民性を育てる。 3. 職業調べを通して、社会に対する視野を広め、自己の適性を把握し、将来への関心を高める。 4. 学習の成果の発表の場をつくり、情報の取捨選択・工夫したまとめ方・発表の仕方を身につける。 <p>【2年】 テーマ 郷土にふれる (SDGs 3、4、8、9、10、12、17)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で活躍している諸先輩の講演や職場体験学習を通して、働くことの困難さややりがいを知ると共に、自己の生き方を考え、今後に生かそうとする姿勢を育てる。 2. 立志式の取り組みを通して将来の自分像を思い描き、未来に向かって力強く歩こうとする姿勢を養う。 3. 高校調べを行い、調査結果をまとめ報告しあうことで情報を共有し、主体的に進路選択を考えるきっかけとする。 4. 身近な先輩たちから高校についての情報を得る機会を設け、将来への意識を高め視野を広げる。 <p>【3年】 テーマ 郷土に生かす (SDGs 3、4、8、9、10、12、17)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修学旅行を通して、日本の文化及び経済の中心都市がある近畿地方の様子を肌で感じることで、キャリア発達の一助とする。また、訪れた地域の歴史と風土を理解し、体験することで、郷土諸富町を見つめ直す。 2. 高校説明会や体験入学を通して自己の進路を明確にとらえ、その実現のために必要な方策を考え、具体的に実行する。 3. これまでの学習を踏まえて郷土の未来のために自分が貢献できることを考えて発表する。

<p>特別活動 (学級活動)</p>	<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成することを目指す。(SDGs 3、4、8、9、10、12、16、17)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 2. 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 3. 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活および人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
<p>キャリア教育</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「夢(なりたい自分像)をもち、たくましく、挑戦する生徒」の育成をテーマとし、各学年で以下の事項を目標とする。 2. それぞれの能力や適性を伸ばさせられるように、自己理解を進め、将来の進路についての関心を高める。 3. 職場訪問や職場体験学習などを通して、働く意義・内容・職業観について理解を深めさせるとともに、将来の職業生活に希望を持たせる。 4. 立志式の取り組みを通して、将来の自分像を思い描き、未来に向かって力強く歩こうとする姿勢を養う。 5. 高校在学中の卒業生の経験談を聞かせることで、進路に対する意識を高めるとともに、中学卒業後についての具体的な見通しを持たせる。 6. 高校説明会や体験入学、入試説明会、パンフレット、ホームページなどから、志望校決定に必要な情報を得る方法を身に付けさせる。 7. 自己を総合的に理解しつつ将来のあり方を考える姿勢を育て、進路決定が具体的になるようにする。 8. 育英資金などの公的な制度を活用することで卒業後の生活に対する不安を解決し、自己実現を果たし得るようにする。 9. 道徳科や特別活動を中心に「キャリア・パスポート」を作成し、社会における自分の役割や将来の生き方や働き方について考えさせ、目標をもって計画的に取り組む態度を育成する。 (SDGs 1、3、4、8、9、10、11、12、17)
<p>環境教育 (SDGs 6、7、12、13、14、15)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒会の整美委員会、給食委員会、図書委員会、学級委員会を中心に環境ISO活動の取り組みに関する意識を高め、活発な活動を行う。 2. SDGsの視点も踏まえ(行動目標 6、7、12、13、14、15)、生徒と教師が一体となって「環境に優しい学校づくり」に取り組む。

<p>読書指導</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全校一斉の朝読書や学級図書を設置, 「図書館だより」における図書の紹介などによって読書意欲を高め, 日常生活における読書習慣の促進を図る。 2. 市の資源流通や図書館のネットワークを活用して学習資材を充実させる。 3. 各教科との連携を深めて学習方法の開発を助ける。 4. インターネットなど電子機器による情報収集を支援し, 学習情報センターとしての機能を充実させる。 <p>(SDGs 4、5、10、11、12、13、14、15、16、17)</p>
<p>食に関する教育</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校給食を生きた教材として活用することで, 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け, 健全な生活を送ることのできる生徒の育成を図る。 2. 家庭科をはじめとする教科・学級活動・総合的な学習などを通して, 食生活やその課題への理解を深め, 自ら解決していこうとする態度を養う。 3. 学校保健安全委員会・各種たよりなどを通して, 生徒の食生活について家庭や地域との間に望ましい共通認識をもち連携した食育を推進する。 <p>(SDGs 1、2、3、4、6、8、9、10、12、17)</p>
<p>教育課題への対応</p>	<p>SDGsの取り組み(SDGs 4、5、10、11、12、16、17)4、5、16、17)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性教育講座, 「男女共同参画パートナーシップ条例」に関する取り組みを行い男女共同参画教育の推進を行う。 2. 男女混合名簿の使用, 制服の見直しを通してジェンダーフリーな社会の担い手としての資質を培う。 3. 社会科, 理科, 家庭科を中心に教育活動全体を通して, 環境問題や気候変動などの問題について考え, 「持続可能な社会」に向けての行動意識を高める。 4. 生徒会を中心に平和集会を行い, 安全安心な世界を希求する心の育成を行う。 5. コミュニティスクールとして, 地域全体で子どもを育てる取り組みを充実させる。 6. 働き方改革を推進する。性の差, 年齢差等を超える, ダイバーシティの考え方を活かした職場環境の工夫, 支え合いを実現する。 7. 部活動改革推進学校として, 地域の力を最大限に生かした教育活動を工夫する。 8. 学校ホームページを必要な情報をタイムリーに更新することで, 学校の情報を多くの学校内外の方に子どもたちの活躍の様子を発信し, 理解, 協力のある地域を目指す。